

働くとは何かを考える

開倫塾

塾長 林 明夫

経済同友会、学校と企業・経営者の交流活動推進委員会委員

1. はじめに

- (1) 自己紹介
- (2) 私の中学時代 (自他共栄) (ブルドック魂)
- (3) 私の高校時代 (一所懸命)
- (4) 私の大学時代 (独立自尊)
- (5) 社会に出てから (自己学習能力の育成)
- (6) いつも 5 年先を考えて準備しよう (生涯現役)

2. 働くことの心構え

- (1) 働くことは「収入」を得ること。
—— 独立自尊 ——
- (2) 「収入」を得るとは、世の中の「お役に立つ」こと。
- (3) 「お役に立つ」とは、お客様の「問題解決」になること。
- (4) ただし、「法令違反(ルール違反)」は許されない。(「公正さ(フェアであること)」が仕事の絶対条件。)
- (5) 会社は原則倒産。
- (6) 「時代に合った仕事」のみ生き残る。
- (7) そこで、働く人には常に「時代に合った仕事をする能力」をもつことが求められる。
- (8) 時代に合った「雇われる能力(エンプロイアビリティ)」を身に付けよう。
—— 「結果の出せる仕事能力」とは ——
 - (ア) 「トップマネジメント(経営幹部)」としてのエンプロイアビリティ
 - (イ) 「ミドルマネジメント(現場責任者)」としてのエンプロイアビリティ
 - (ウ) 「一般社員」としてのエンプロイアビリティ

(9)目を輝かせて「仕事」に打ち込もう。

—— 今やっている仕事の意味、使命(ミッション)を知ろう ——

(10)「生涯現役」を目指そう。

(ア)自律した生活 —— 自分のことは自分で

(イ)自己責任の原則 —— 他人のせいにならない

(ウ)心の健康管理, 身体健康管理

— 心も身体も病気にならないように「予防」を, 病気になったらすぐに直す「早期治療」を—

(11)「仕事」の仕方(世の中の「お役に立つ」やり方)はいろいろ。

(ア)会社員

(イ)公務員(地方公務員, 国家公務員, 国際公務員)

(ウ)NPO(非営利組織), 社会起業

(12)「躰(しつけ)」を身に付けよう —— 企業が一番困っていること。

(ア)美しい立居振舞い(たちいふるまい)

(イ)敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)

(13)「コミュニケーション」能力を —— プロフェッショナルとは、「説明」できる人。

(14)「IT」能力を —— 「知識社会(Knowledge Society, ナリッジ・ソサイエティ)」に備えよう。

(15)「英語」能力を —— 経済の自由化は人の移動を伴い, 人の移動のさかんな国では英語によるコミュニケーションが仕事の上で不可欠。

(16)収入の範囲内での生活を。

3. 夢や希望をもち、将来を考える上で大切なこととは

(1)「新聞」を毎日腰を落ち着けてじっくり読み, 世の中の動きを知ること。

(2)「読書」をし, 深く「考える力」を身に付けること。

—— 新聞や教科書を参考に, 「読書」に値する本を選ぶこと ——

(3)「アジア」のよさ, 「日本」のよさ, 「東京」のよさ, 「足立区」のよさ, 「自分」のよさに気付くこと。(「日本」, 特に「東京」は世界の人々のあこがれの地)

—— 解決し克服しなければならない問題にも気付くこと ——

(4)人生における選択の幅を広げるために「勉強」を。

(5)今中学校で習っている勉強は, 世の中に出てすべて役立つ。

(6)一生勉強, 一生青春。

以上